

第 1 1 章 緑視率調査

1. 緑視率調査の方法

緑視とは人の目に映る緑の量で、立面的な視野内に占める緑量の割合を緑視率という。人間の緑に対する満足度、意識量の把握手段として用いられ、人間の普通の視野の範囲で撮影した写真等を用い、その中に占める樹木等の緑の面積占有率を集計するものである。

本調査では、平成 24 年度に調査を行った 70 地点を調査地点とした。

調査方法は、各地点において図 11-1 に示すとおり、交差点の各方向を人の視野に近い範囲で写真撮影し、各写真内に占めるみどりの割合を視点数で平均して緑視率を求めた。

また、前回と比較を行うため、できるだけ同じ範囲が入るようにデジタルカメラで撮影し、画角の統一を図った。撮影を実施した地点は図 11-9 のとおりである。

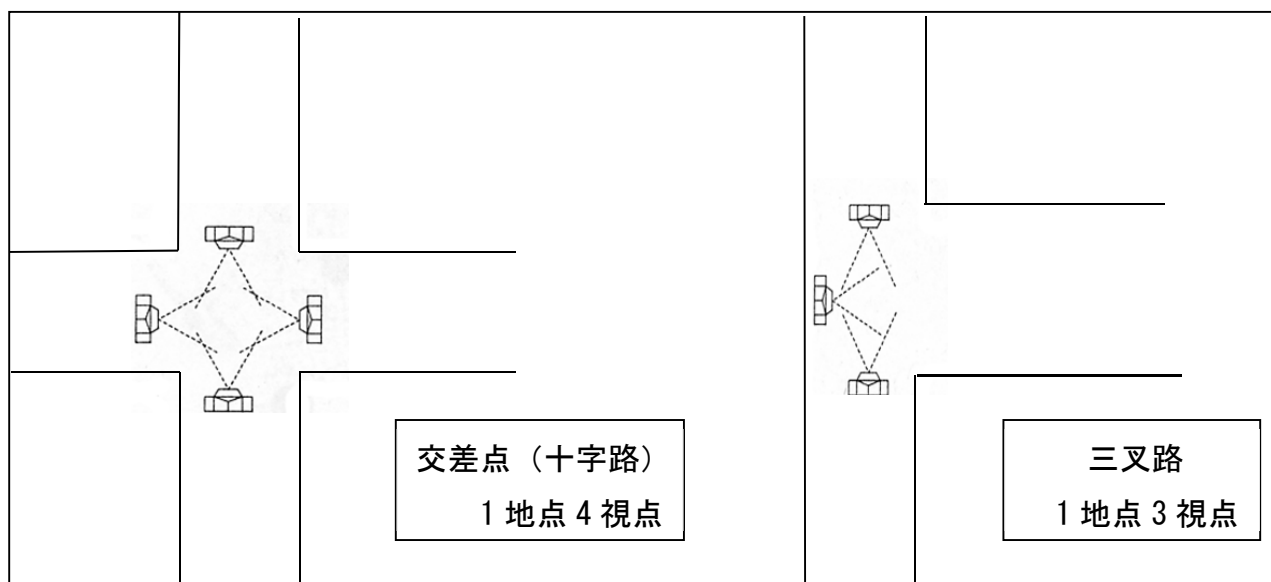
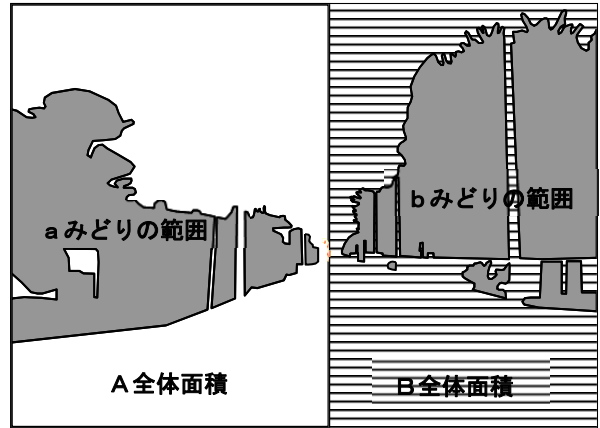


図 11-1 写真撮影方向

緑視率の計測方法は前回の計測方法を踏襲して、撮影した写真から前回調査と同様の測定範囲を抽出し、測定範囲を左右に分割して左右それぞれの写真範囲と緑の範囲を計測して緑視率を求めた。

$$\text{緑視率 (\%)} = \frac{(\text{左側の緑の範囲面積} + \text{右側の緑の範囲面積})}{(\text{左側の写真面積} + \text{右側の写真面積})} \times 100$$



$$\text{一方向からの緑視率(\%)} = (a+b) \div (A+B) \times 100$$

図 11-2 緑視率の測定方法

2. 緑視率調査の結果

緑視率調査結果より区全体 70 視点の平均緑視率は 21.30%であった。

地域別の緑視率が最も高いのは、阿佐谷地域の 27.00%、最も低いのは西荻地域の 15.81%であった。

ゾーン別に見ると、緑視率が最も高いのが成田ゾーンの 35.29%、次いで上井草ゾーンが 27.95%であった。

一方、緑視率の最も低いのは荻窪北ゾーンの 12.78%であった。

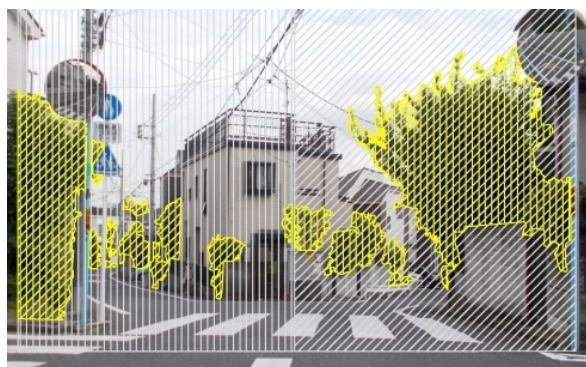
表 11-1 地域・ゾーン別緑視率

地域・ゾーン	平均緑視率(%)
上井草	27.95
下井草	13.25
井草	20.60
西荻北	17.50
西荻南	14.12
西荻	15.81
荻窪北	12.78
荻窪南	23.73
荻窪	18.25
阿佐谷	18.72
成田	35.29
阿佐谷	27.00
高円寺	20.62
和田・堀ノ内	23.40
高円寺	22.01
高井戸西	17.47
高井戸東	27.48
高井戸	22.47
永福	22.18
方南・和泉	23.66
方南・和泉	22.92
区全体	21.30

区全体の平均緑視率 21.30%と同等の状況の事例を図 11-3 に示す。生け垣等の連続したみどりはみられないが、庭木が点在している。

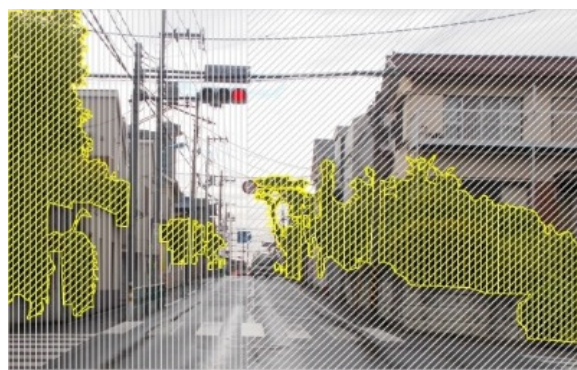
緑視率 25%程度の事例を図 11-4 に示す。高木を含む庭木と接道部緑化により緑視率が高くなっている。緑視率が 25%以上になるとみどりが多いと感じる*といわれている。

※「都市の緑量と心理的効果の相関関係の社会実験について 国土交通省」より



7-1-3 下高井戸四丁目 緑視率 21.48%

図 11-3 平均緑視率の事例

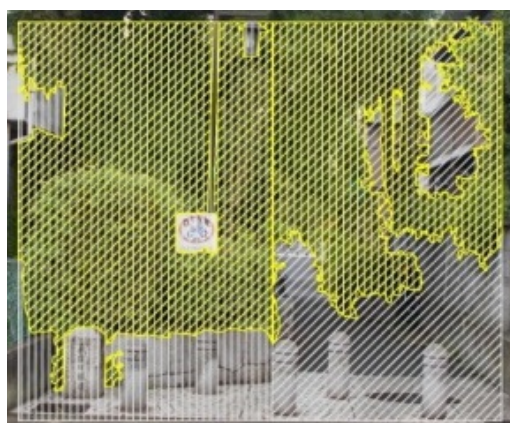


1-1-4 井草四丁目 緑視率 25.65%

図 11-4 緑視率 25%の事例

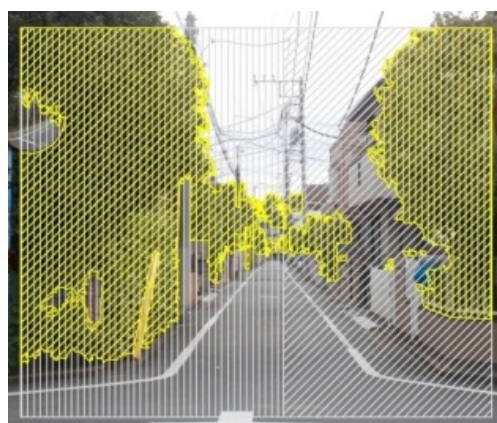
次にみどりの多い住宅地の事例を示す。

住宅地内で緑視率が高いものは庭木に高木があるもの、緑道、公園、学校等の接道部緑化があるものなどである。図 11-5 は桃園川緑道、図 11-6 は住宅地の接道部緑化によりみどりの多い環境がつけられている。



9-2-2 高円寺南三丁目 緑視率 69.80%

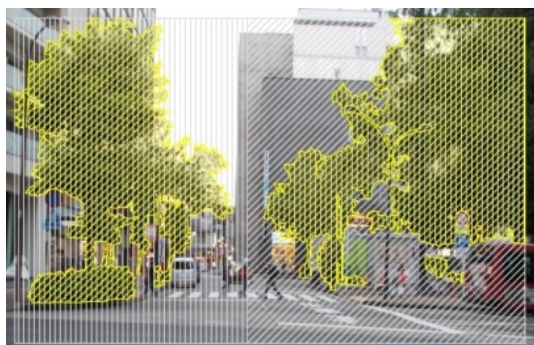
図 11-5 みどりの多い住宅地事例①



4-1-4 松庵三丁目 緑視率 47.21%

図 11-6 みどりの多い住宅地事例②

次は商業地域の事例を示す。商業地は建ぺい率が高く、接道部を店舗として活用しているため、緑視率は低い傾向にあり、1%以下の地点も多い。その中で、図 11-7 の阿佐ヶ谷駅前及び中杉通りはみどりの多い商業地であり、緑視率は 44.21%であった。



7-4-4 阿佐谷南二丁目 緑視率 44.21%

図 11-7 みどりの多い商業地域事例



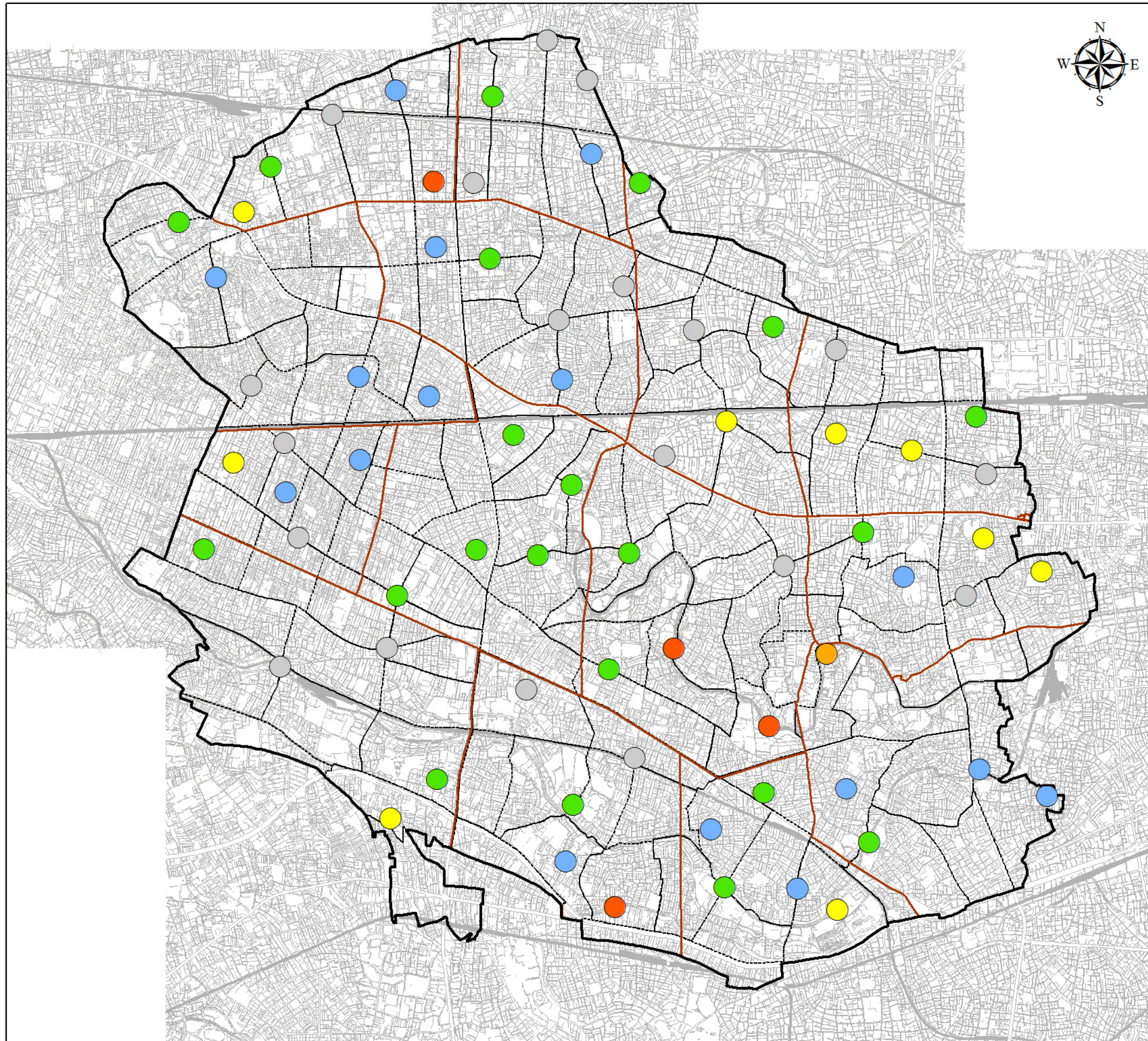
4-2-4 西荻南二丁目 緑視率 0.02%

図 11-8 みどりの少ない商業地域事例

表 11-2 地点別緑視率

ゾーン名	地点番号	地点平均緑視率(%)
上井草	1-1	19.50%
上井草	1-2	3.77%
上井草	1-3	28.79%
上井草	1-4	32.36%
上井草	1-5	55.32%
下井草	2-1	9.74%
下井草	2-2	29.03%
下井草	2-3	8.00%
下井草	2-4	11.33%
下井草	2-5	8.14%
西荻北	3-1	27.71%
西荻北	3-2	17.75%
西荻北	3-3	9.16%
西荻北	3-4	17.56%
西荻北	3-5	15.33%
西荻南	4-1	32.35%
西荻南	4-2	0.42%
西荻南	4-3	13.27%
西荻南	4-4	17.83%
西荻南	4-5	6.75%
荻窪北	5-1	12.81%
荻窪北	5-2	23.54%
荻窪北	5-3	8.40%
荻窪北	5-4	7.33%
荻窪北	5-5	11.79%
荻窪南	6-1	21.92%
荻窪南	6-2	21.09%
荻窪南	6-3	21.13%
荻窪南	6-4	25.15%
荻窪南	6-5	29.37%
阿佐谷	7-1	22.10%
阿佐谷	7-2	9.82%
阿佐谷	7-3	22.44%
阿佐谷	7-4	31.01%
阿佐谷	7-5	8.21%

ゾーン名	地点番号	地点平均緑視率(%)
成田	8-1	28.40%
成田	8-2	5.82%
成田	8-3	23.83%
成田	8-4	60.27%
成田	8-5	58.11%
高円寺	9-1	8.77%
高円寺	9-2	35.19%
高円寺	9-3	31.00%
高円寺	9-4	23.88%
高円寺	9-5	4.25%
和田・堀ノ内	10-1	22.75%
和田・堀ノ内	10-2	17.68%
和田・堀ノ内	10-3	3.51%
和田・堀ノ内	10-4	39.51%
和田・堀ノ内	10-5	33.54%
高井戸西	11-1	21.17%
高井戸西	11-2	9.13%
高井戸西	11-3	2.78%
高井戸西	11-4	21.68%
高井戸西	11-5	32.58%
高井戸東	12-1	9.39%
高井戸東	12-2	8.68%
高井戸東	12-3	25.47%
高井戸東	12-4	11.40%
高井戸東	12-5	82.43%
永福	13-1	25.05%
永福	13-2	15.73%
永福	13-3	20.51%
永福	13-4	16.76%
永福	13-5	32.84%
方南・和泉	14-1	42.16%
方南・和泉	14-2	17.47%
方南・和泉	14-3	18.87%
方南・和泉	14-4	22.17%
方南・和泉	14-5	11.06%



地域・ゾーン区分図

凡例

- 0～10%
- 10～20%
- 20～30%
- 30～40%
- 40～50%
- 50%以上
- ▭ ゾーン界
- ▭ 町丁目界
- ▭ 区域界

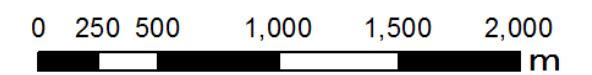


図 11-9 緑視率状況図

3. 緑視率の推移

平成24年度調査の区全体の平均緑視率は23.06%であったが、平成29年度調査の区全体の平均緑視率は21.30%で、1.76ポイントの減少であった。

写真撮影視点別緑視率の推移を表11-3、図11-10に示す。

平成24年度調査では緑視率15～25%が最も多く73視点であり、平成29年度調査でも同じく緑視率15～25%が最も多く74視点であった。緑視率が25%以上の視点数は平成24年度調査が99視点だったのに対して、平成29年度調査では82視点となり、17視点減少した。5%未満の視点数は5視点増え41視点であった。

表 11-3 写真撮影視点別緑視率の推移

緑視率	平成24年度 (箇所)	平成29年度 (箇所)	増減(H29-H24) (箇所)
5%未満	36	41	5
5～15%	60	71	11
15～25%	73	74	1
25～35%	41	37	▲4
35～45%	34	24	▲10
45～55%	13	6	▲7
55～65%	8	11	3
65%以上	3	4	1

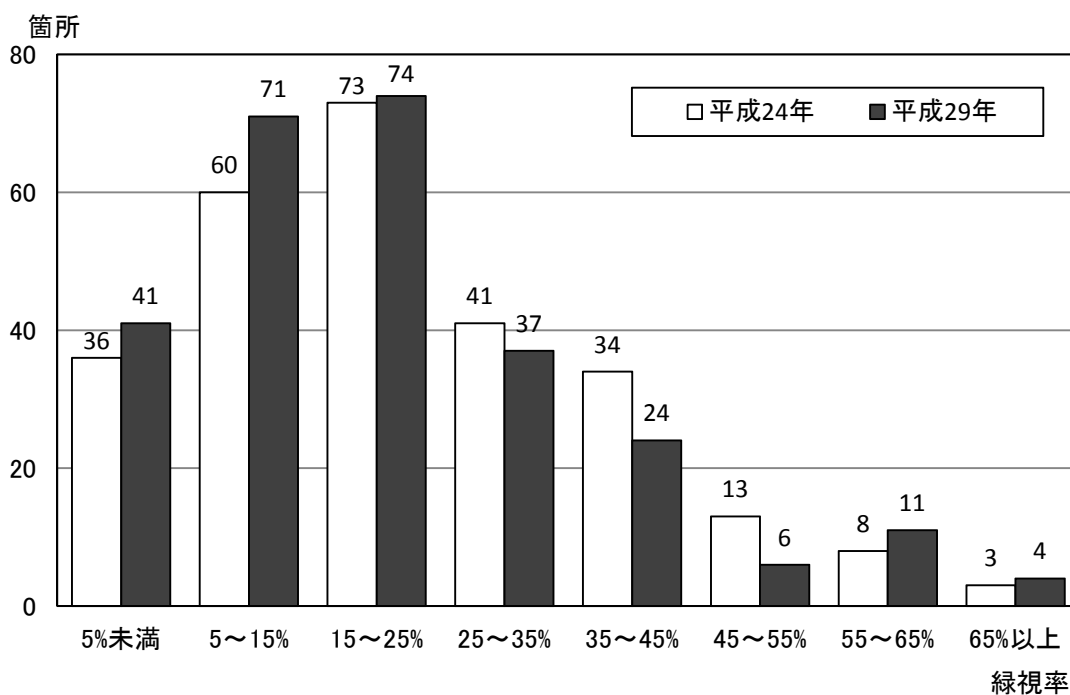
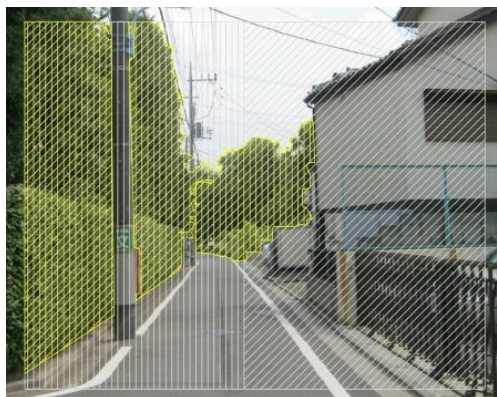


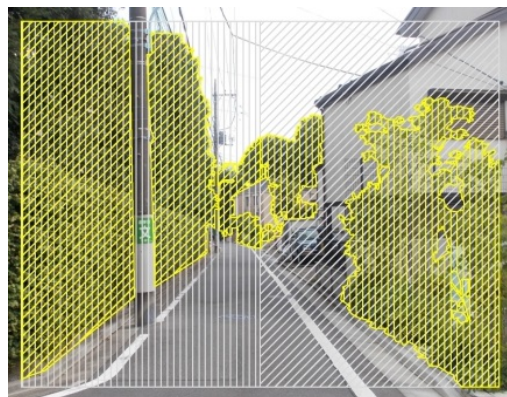
図 11-10 写真撮影視点別緑視率の推移

緑視率の主な増加地点を図 11-11、図 11-12 示す。

図 11-11 は、集合住宅の建設に伴い駐車場部分に緑化が行われたことで、緑視率が上がった事例である。平成 24 年度は駐車場の門扉であった所が、平成 29 年度では植栽帯になっている。



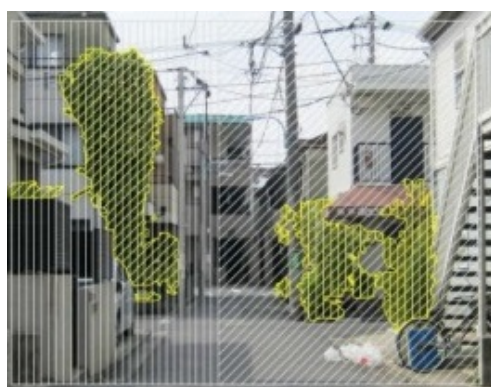
平成 24 年度 11-5-2 緑視率 30.77%



平成 29 年度 11-5-2 緑視率 51.46%

図 11-11 緑視率の増加事例①

図 11-12 は桃園川緑道に面する住宅地である。平成 24 年度の緑視率は 16.45%であったが、樹木が生長したことでみどりのボリュームが増し、緑視率 31.85%となった。



平成 24 年度 9-3-1 緑視率 16.45%



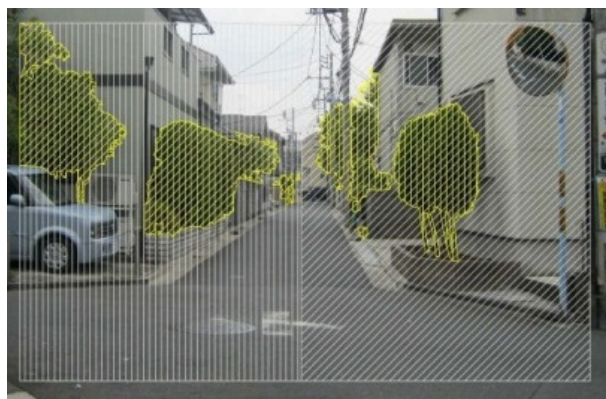
平成 29 年度 9-3-1 緑視率 31.85%

図 11-12 緑視率の増加事例②

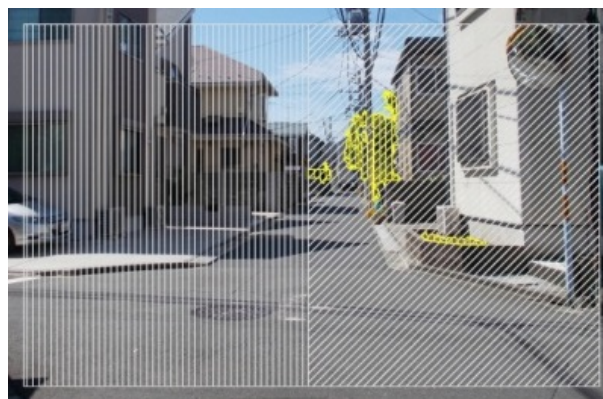
緑視率の主な減少地点を図 11-13、図 11-14 に示す。

図 11-13 では建物の建築に伴い接道部の緑化が消失し、平成 24 年度調査では緑視率 19.54%であったが、平成 29 年度調査では 1.46%となった。

図 11-14 においても、庭木のある住宅地が更地化したことで、緑視率が 18.19%から 3.45%に下がった事例である。

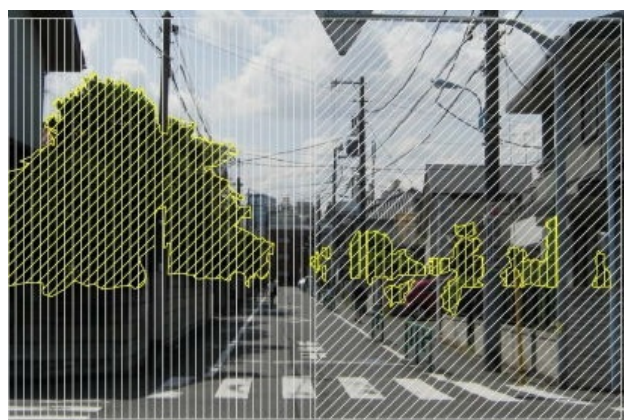


平成 24 年度 12-4-2 緑視率 19.54%



平成 29 年度 12-4-2 緑視率 1.46%

図 11-13 緑視率の減少事例①



平成 24 年度 2-5-1 緑視率 18.19%



平成 29 年度 2-5-1 緑視率 3.45%

図 11-14 緑視率の減少事例②